

令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	国語	学年	3学年	教科書	論理国語 大修館書店
科目	論理国語	クラス	Ⅲコース	副教材	学習課題ノート(大修館書店) クリアカラー国語便覧(数研出版)
		単位数	2	担当者	浅水 理香

学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。																
学習方法	・授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行う。 ・プリントや副教材等を利用し、授業内容についての理解を深める。 ・毎時間小テストを実施し、語彙力の定着を図る。 ・自らの学習を振り返り自己評価するとともに、相手の意見や主張について考え相互評価する。																
学習評価	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">評価の観点</th> <th colspan="2">当該科目の評価の趣旨</th> </tr> <tr> <td>a</td> <td>知識及び技能</td> <td colspan="2">実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。</td> </tr> <tr> <td>b</td> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td colspan="2">「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</td> </tr> <tr> <td>c</td> <td>主体的に学習に取り組む態度</td> <td colspan="2">言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉の効果的に使おうとしている。</td> </tr> </table> <p>定期考査については、上記a,bの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。</p>	評価の観点		当該科目の評価の趣旨		a	知識及び技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。		b	思考力・判断力・表現力	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉の効果的に使おうとしている。	
評価の観点		当該科目の評価の趣旨															
a	知識及び技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。															
b	思考力・判断力・表現力	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。															
c	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉の効果的に使おうとしている。															

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	【第Ⅱ部】 1 自己と他者 『贈り物』としてのノブレス・オブリージュ』	・筆者の発想のしかたや論の展開の特徴を読み取る。 ・「贈り物」についての筆者の主張をふまえて、自己と他者について考える。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながらいまを把握している。 ・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めている。 ・学習課題に沿って、一般的な解釈と、筆者の解釈の違いを意識しつつ、粘り強く筆者の主張をとらえようとしている。 ・教材文の主旨を変えないように、相手に即した言葉・表現に書き換えている。 ・「書くこと」において、相手の予備知識に応じて情報を整理し、文章構成を工夫して、主旨を的確に伝えている。 ・成果物を読み合い、学びの成果を言葉で表現しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト ④定期考査
				○			
			○				
				○			
前期末	【第Ⅱ部】 3 メディアの変容 『消費されるスポーツ』	・具体例と筆者の主張との関係を的確にとらえる。 ・スポーツとメディアの関係についての考えを深める。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。 ・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めている。 ・学習課題に沿って、具体例に注目しつつ、粘り強く筆者の主張をとらえようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト ④定期考査
				○			
			○				
				○			
前期末	【第Ⅱ部】 4 言葉の探究 『人を指す言葉—自称詞・対称詞・他称詞』	・根拠に注目しながら、筆者の主張を読み取る。 ・日本語の特徴について考え、言葉に対する理解を深める。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。 ・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めている。 ・学習課題に沿って、論理の展開に注目しつつ、粘り強く筆者の主張をとらえようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト ④定期考査
				○			
			○				
				○			

後期中間	【第Ⅱ部】 5 政治と社会 『多数決を疑う』	・筆者が指摘する問題点や代替案を読み取り、主張を理解する。 ・意思決定のしくみに興味をもち、社会制度のあり方を考える。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながらいまを把握している。 ・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めている。 ・学習課題に沿って、筆者の問題意識を把握しつつ、粘り強く筆者の主張をとらえようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト ④定期考査
				○			
後期末	【第Ⅱ部】 7 環境へのまなざし 『生物多様性の思慮』	・具体例との関係に注意しながら筆者の主張をとらえる。 ・生物多様性と文化や社会との関係について考えを深める。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながらいまを把握している。 ・「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の文章や資料をもとに、必要な情報を関係づけて自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・学習課題に沿って、具体例と論の関係に注目しつつ、粘り強く筆者の主張をとらえようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト
				○			
			○				
				○			
後期末	大学入試問題演習	共通テスト対策 二次試験対策	○	○	○	共通テストの対策及び二次試験の対策に精力的に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	0	35
	思考・判断・表現	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	国語	学年	3学年	教科書	精選現代文B[新訂版] 大修館書店
科目	文学国語	クラス	Ⅲコース	副教材	精選現代文B[新訂版]学習課題ノート(大修館書店) クリアカラー国語便覧(数研出版)
		単位数	2	担当者	小笠原友幸

学習目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
学習方法	○授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行う。 ○プリントや副教材等を利用し、授業内容についての理解を深める。 ○自らの学習を振り返り自己評価するとともに、相手の意見や主張について考え相互評価する。
学習評価	評価の観点
	当該科目の評価の趣旨
a 知識及び技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。
b 思考力・判断力・表現力	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
c 主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
定期考査については、上記a.bの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。	

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	[単元1] 第2部 随想・評論(一) [教材] 『枚の中で、時が重なり合う』	・言葉による世界の多様なとらえ方に着目する。 ・自然と人間との関係における言語表現の魅力を味わう。	○	○	○	a 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 文学的な文章を読むことをとおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 b 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。 「読むこと」において、作品の内容や解釈をふまえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 c 自然の描写をはじめとする表現の特徴に着目し、文章の魅力を読み味わおうとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト ④定期考査
	[単元2] 第2部 小説(一) [教材] 『鍋セット』	・時間の流れと人物の変化との関係を的確にとらえる。	○	○	○	a 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 文学的な文章を読むことをとおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 b 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。 「読むこと」において、作品の内容や解釈をふまえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 c 文体の特徴と効果をおさえ、作品を読み味わい、自身の日常や体験について考えを深めようとしている。	
前期末	[単元1] 第2部 小説(二) [教材] 『赤い藁』	・独特の文体や非現実的な展開のおもしろさを味わう。 ・寓話的な作品を読み、批評性や象徴性をとらえる。	○	○	○	a 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 文学的な文章を読むことをとおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 b 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の方法をふまえ、解釈の多様性について考察している。 c 作品の持つ寓意性や、その表現方法の特徴について考えを深めようとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト ④定期考査
	[単元2] 第2部 随想・評論(2) [教材] 『藤』	・草木とともにある家族への筆者の思いを読み取る。	○	○	○	a 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 文学的な文章を読むことをとおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 b 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。 「読むこと」において、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。 c 筆者の表現をふまえ、伝統的な価値観やその変化について考えを深めようとしている。	
後期中間	[単元1] 第2部 小説(四) [教材] 『舞姫』	・明治という時代背景・舞台設定の意味を考える。 ・登場人物の境遇と心情を理解する。	○	○	○	a 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文学的な文章を読むことをとおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 b 「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえるとともに、作品が成立した背景や他の作などとの関係をふまえ、作品の解釈を深めている。 「読むこと」において、作品の内容や解釈をふまえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 c 時代背景や舞台設定をおさえ、登場人物の境遇を理解しながら、作品を読み味わおうとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト ④定期考査
後期末	大学入試問題演習	共通テスト対策 二次試験対策	○	○	○	共通テストの対策及び二次試験の対策に精力的に取り組んでいる。	

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	0	35
	思考・判断・表現	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	国語	学年	3学年	教科書	高等学校 古典探求 (数研出版)
科目	古典探究	クラス	Ⅲコース	副教材	古典探求 学習ノート (数研出版)
		単位数	2	担当者	浅水 理香

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 国語を理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ることができる。 目的など場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させることができる。 必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させることができる。 近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させることができる。 言語文化及び言葉の特徴や決まりなどについての理解を深め、知識を身に付けることができる。
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業において自ら考え、あた、周りの生徒と共同で考える活動を行う。 プリントや副教材等を利用し、授業内容についての理解を深める。 毎時間小テストを実施し、語彙力の定着を図る。 自らの学習を振り返り自己評価するとともに、相手の意見や主張について考え相互評価する。
学習評価	<p>評価の観点 当該科目の評価の趣旨</p> <p>a 知識及び技能 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付け、文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。</p> <p>b 思考力・判断力・表現力 「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>c 主体的に学習に取り組む態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。</p> <p>定期考査については、上記abの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。</p>

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第二章 随筆 枕草子「二月つごもりごろに」	「宰相の御いらへを…心一つに苦しきを」について、ここで作者が「配慮していることについて説明する。」「なほ内侍に奏してなさむ」とは、誰をどのように評しているのか説明する。	○			古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ワークシート ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③定期考査
	第二章 随筆 古本説話集「清少納言がこと」	「二月つごもりごろに」と本文を比較し、違いを整理する。 『枕草子』と『古本説話集』が同じエピソードを通じて伝えられたことはそれぞれ何か考える。	○			古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 粘り強く『枕草子』と『古本説話集』の記述の違いを考え、今までの学習を生かして内容を比較整理しようとしている。	
	第二章 逸話 呂子春秋「知音」	この逸話から生まれた成語である「知音」は、現在どのような意味で使われているか調べる。 ・伯牙が「破琴絶弦、終身不復鼓琴」としたのはなぜか考える。	○			古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 伯牙が琴を弾くことをやめた理由について進んで考察し、学習課題に沿って本文を解釈しようとしている。	
前期末	第二章 日記文学 蜻蛉日記「父の離京」	「ただひとへに悲し心細きことをのみ思ふ」について、このときの作者の気持ちや説明する。 「君をのみ……」「我をのみ……」の二首の歌はどのような関係になっているか説明する。	○			古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 積極的に作者の心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②朝・週末課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③定期考査
	第二章 小説 捜神記「売鬼」	本文に見られる鬼の特徴をまとめる。 ・宋定伯の知恵が読み取れる言動を整理する。	○			古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 宋定伯の知恵が読み取れる言動について進んで考察し、学習課題に沿って本文を解釈しようとしている。	

後期中間	第二章 物語 源氏物語「車争ひ」	本文中から、光源氏に対する六条御息所の思いが読み取れる箇所をあげて、その心情を説明する。 本文中から、六条御息所・葵の上・光源氏の従者たちの言動が描写された箇所をあげて、その内容を説明する。 「笹の隈にだにあらねばにや……」について、『古今和歌集』神遊びの歌の引用がどのような効果を与えているか、調べてまとめる。	○			古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 粘り強く引き歌の効果について考察し、今までの学習を生かして調べたことをまとめようとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②朝・週末課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③定期考査
	第一章 史伝 史記「四面楚歌」	「四面楚歌」という成語が現在どのような意味で使われているか調べる。 ・項羽は敗戦の原因をどのように考えているか、詩の一句目と二句目の表現を踏まえて考える。	○			古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 項羽の認識について進んで考察し、学習課題に沿って本文を解釈しようとしている。	
後期末	大学入試問題演習	共通テスト対策問題演習 二次試験対策演習	○	○	○	共通テストの対策及び二次試験の対策に精力的に取り組んでいる。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②朝・週末課題提出 ・提出状況 ・取り組み

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識・技能	35	0	35
	思考・判断・表現	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	地理歴史	学年	3	教科書	日本史探究 詳説日本史 (山川出版社)
科目	日本史探究	コース	Ⅲ	副教材	最新日本史図表(第一学習社)
		単位数	文系 4、理系 2	担当者	高橋 栄一

学習目標	日本の歴史を他国の歴史と関連づけながら理解し、歴史的な思考力に基づきながら人類の課題を多角的に考察することによって、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。				
学習方法	(1)単元にテーマを設定し、課題探究的な学習をベースとする。副教材と小テストで日常的に知識理解を図る。 (2)単元の学習に、学習内容が可視化できる教具を活用したり、ICT機器を活用したりしながら学習する。 (3)主体的かつ対話的で深い学びを促すために、ペアワークやグループワークを随時用いて学習する。 (4)現代における社会的現象の「見方・考え方」と、歴史的な「見方・考え方」をつなげられるように学習する。 (5)世界との関連や、人の営みである社会・経済・文化の動きが、日本の歴史の推移との関わりを学習する。				
学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨			
	a 知識及び技能	我が国の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。			
	b 思考力・判断力・表現力	歴史的・地理的事象から課題を見いだし、わが国の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。			
	c 主体的に学習に取り組む態度	歴史的・地理的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、現代の日本において主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。			
定期考査については、上記a,b,cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。					

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第8章 近世の幕開け	1織豊政権 2桃山文化	○	○	○	a:近世国家と社会や文化の特色についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。また、諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 b:近世国家と社会や文化の特色から課題を見いだし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:近世国家と社会や文化の特色に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。 ※文系・理系の単位数は異なるが、活用する教材の工夫により、進度は文理共通とする。	①授業態度・小テストの実施 ②課題・レポート等の提出 ③定期考査と解き直し(復習)
	第9章 幕藩体制の成立と展開	1幕藩体制の成立 2幕藩社会の構造 3幕政の安定 4経済の発展 5元禄文化	○	○	○		
	第10章 幕藩体制の動揺	1幕政の改革 2宝暦・天明期の文化	○	○	○		
前期末	第10章 幕藩体制の動揺	3幕府の衰退と近代への道 4化政文化	○	○	○	a:近代国家の形成と社会や文化の特色、現代の社会や国民生活の特色についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。また、諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 b:近代国家の形成と社会や文化の特色、現代の社会や国民生活の特色から課題を見いだし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:近代国家の形成と社会や文化の特色、現代の社会や国民生活の特色に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。 ※文系・理系の単位数は異なるが、活用する教材の工夫により、進度は文理共通とする。	①授業態度・小テストの実施 ②課題・レポート等の提出 ③定期考査と解き直し(復習)
	第11章 近世から近代へ	1開国と幕末の動乱 2幕府の滅亡と新政府の発足	○	○	○		
	第12章 近代国家の成立	1明治維新と富国強兵 2立憲国家の成立	○	○	○		
	第13章 近代国家の展開	1日清・日露戦争と国際関係 2第一次世界大戦と日本 3ワシントン体制	○	○	○		

後期中間	第14章 近代の産業と生活	1近代産業の発展 2近代文化の発達 3市民生活の変容と大衆文化	○	○	○	a:近代国家の形成と社会や文化の特色、現代の社会や国民生活の特色についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。また、諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 b:近代国家の形成と社会や文化の特色、現代の社会や国民生活の特色から課題を見いだし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:近代国家の形成と社会や文化の特色、現代の社会や国民生活の特色に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。 ※文系・理系の単位数は異なるが、活用する教材の工夫により、進度は文理共通とする。	①授業態度・小テストの実施 ②課題・レポート等の提出 ③定期考査と解き直し(復習)
	第15章 恐慌と第二次世界大戦	1恐慌の時代 2軍部の台頭 3第二次世界大戦	○	○	○		
	第16章 占領下の日本	1占領と改革 2冷戦の開始と講和	○	○	○		
	第17章 高度成長の時代	155年体制 2経済復興から高度成長へ	○	○	○		
	第18章 激動する世界と日本	1経済大圏への道 2冷戦の終結と日本社会の変容	○	○	○		
後期末	共通テスト演習 二次試験対策		○	○	○	a・b・c総合・演習問題の取り組みを通して、知識及び技能の定着に専心し、史資料を基に思考・判断を深めながら、次代を見る目を養っている。	①演習の出来ばえ ②演習問題等の解き直し(復習)

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
前期末	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
後期中間	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
後期末	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25

令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	公民	学年	3	教科書	政治・経済(東京書籍)
科目	政治経済	コース	Ⅲ(文)	副教材	なし
		単位数	3	担当者	湊 祥之介

学習目標	社会のグローバル化の進展に伴い、従来、定型的にとらえ、理解してきた政治、経済、社会のしくみそのものが大きな変化に見舞われている。そのような社会において自律した社会人として変化に対応し、また、普遍的な価値を守っていくために政治社会や経済社会の基本的な枠組みやしくみを深く理解する。そして、その上でそれらの知識や多くの情報を的確に組合せ、取捨選択して変化の激しい社会を生き抜く能力を身に付ける。	
学習方法	(1) 課題探究型学習をベースとする(新学習指導要領を意識する)。 (2) 単元の基軸となる問いを設定し、生徒自身による「問いを表現する」機会も設定する。 (3) 「アクティブ・ラーニング」(主体的・対話的で深い学び)の視点を導入する。 (4) 社会的現象における「見方・考え方」や歴史的な「見方・考え方」を働かせる。 (5) 新学習指導要領中の「政治・経済」を意識した歴史学習を展開する。	
学習評価	当該科目の評価の趣旨	
	a 知識・理解	現代の社会的現象と人間としての在り方生き方とにかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。
	b 思考・判断・表現	現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的現象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立つて多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
	c 主体的に学習に取り組む態度	現代の社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。
定期考査については、上記a,b,cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1章 現代の政治 【1節】 民主政治の基本原則	1 民主政治の成立 2 基本的な権の分立 3 現代の民主政治 4 世界のおもな政治体制	○	○	○	a. 現代の国内政治及び国際政治に関して、基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。 b. 現代の国内政治及び国際政治から課題を見だし、公正な判断の下、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 c. 現代の国内政治及び国際政治に対する関心を高め、民主政治の本質や現代政治の特質、また、国際政治の特質や国際紛争の諸要因を意欲的に追求し、望ましい政治の在り方や主権者としての在り方、また、日本の役割を考察しようとしている。	①授業態度 ②課題提出 ③定期考査
	第1章 現代の政治 【2節】 日本国憲法の基本原則	1 日本国憲法の制定と基本原則 2 基本的人権の保障 3 平和主義	○	○	○		
	第1章 現代の政治 【3節】 日本の政治機構	1 国会と立法 2 内閣と行政 3 裁判所と司法 4 地方自治	○	○	○		
	第1章 現代の政治 【4節】 現代政治の特質と課題	1 戦後政治と政党 2 選挙と政治意識 3 世論と政治参加	○	○	○		
前期末	第1章 現代の政治 【5節】 現代の国際政治	1 国際政治の特質 2 国際社会と国際法 3 国際連合の主要な諸国 4 戦後国際関係の展開と日本 5 国際政治の課題 6 地球環境と資源・エネルギー問題 7 国際社会における日本の役割	○	○	○	①授業態度 ②課題提出 ③定期考査	
	第2章 現代の経済 【1節】 現代の資本主義経済	1 資本主義体制の成立 2 資本主義経済の発展と変容	○	○	○		
前期末	第2章 現代の経済 【2節】 現代経済のしくみ	1 経済主体と経済の循環 2 生産のしくみと企業 3 市場経済の機能と限界 4 国民所得と経済成長 5 金融のしくみと機能 6 財政のしくみと機能	○	○	○	①授業態度 ②課題提出 ③定期考査	
	第2章 現代の経済 【3節】 日本経済の発展と産業構造の変化	1 経済再建から高度成長へ 2 オイルショック後の日本経済 3 日本経済の現状	○	○	○		
後期中間	第2章 現代の経済 【4節】 福祉社会と日本経済の課題	1 公害と環境保全 2 消費問題 3 農業・食料問題 4 中小企業の現状と課題 5 雇用と労働問題 6 社会保障と福祉	○	○	○	①授業態度 ②課題提出 ③定期考査	
	第2章 現代の経済 【5節】 国民経済と国際経済	1 貿易と国際収支 2 国際経済体制の展開 3 発展途上の経済 4 地域主義の動き 5 グローバル化する世界経済	○	○	○		
	第3章 現代社会の諸課題 【1節】日本社会の諸課題 【2節】国際社会の諸課題	1 少子高齢社会において社会保障はどうあるべきか？ 2 地域社会を活性化するにはどうすればよいか？ 3 どのようにして若者の労働環境を改善するか？ 4 中小企業の活路はどこに？ 5 どうする？日本の「食止農」 1 地球環境にやさしいエネルギーをどう確保するか？ 2 経済発展は資源を削減できるか？ 3 パレスチナ問題とは何か？ 4 地球社会で日本がなすべきことは何か？	○	○	○		
後期末	共通テスト演習 二次試験対策等		○	○	a・b・c総合:演習問題の取り組みを通して、知識及び技能の定着に専心し、現代の諸課題に関する諸資料を基に思考・判断を深め、課題解決に向けた考察力・構想力を養っている。	①授業態度 ②演習の出来ばえ・復習状況	

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・理解	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20
前期末	知識・理解	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20
後期中間	知識・理解	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20
後期末	知識・理解	40	0	40
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	数学	学年	3年	教科書	最新 数学Ⅲ(数研出版)
科目	数学Ⅲ	クラス	Ⅲコース	副教材	3ROUND 数学Ⅲ(数研出版) NEW ACTION FRONTIER 数学Ⅲ
		単位数	3	担当者	五日市純哉

学習目標	① 関数、極限、微分法と積分法の基本的な問題を解くことができる。 ② 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを世の中の事象に活用し数学的に考察することができる。 ③ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。
------	--

学習方法	① 授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考えるペアワークを行う。 ② 課題ノートを作成し、授業内容についての課題に取り組む。また、週末や長期休業等の課題に取り組む。
------	--

学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨
	a 知識及び技能	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
	b 思考力・判断力・表現力	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な思考力・判断力・表現力を身に付けている。
	c 主体的に学習に取り組む態度	数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。
定期考査については、上記a,b,cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1章 関数	分数関数と無理関数	○	○	○	a: 数列や極限について体系的に理解し様々な値が求められる。数列や極限について数学的に捉えて、処理することができる。 b: 数列や関数値の極限について多面的に考察、表現することができる。 c: 数列や関数値の極限に関心をもち、考察に活用しようとする。	① 授業態度 (1) 発言 (2) 取り組み (3) ノート作成 ② 課題提出 (1) 提出状況 (2) 取り組み ③ 確認テスト ④ 定期考査
		逆関数と合成関数	○	○	○		
	第2章 極限	数列の極限とその計算	○	○	○		
		無限等比数列	○	○	○		
		無限級数	○	○	○		
		関数の極限	○	○	○		
		いろいろな関数の極限	○	○	○		
関数の連続性	○	○	○				
前期末	第3章 微分法とその応用	微分係数と導関数	○	○	○	a: 微分法の考え方を理解し、それらの関連から適切に公式を用いて、式や値を求めることができる。微分法を用いて、関数のグラフを書くなど、物事を数学的に表現・処理することができる。 b: 微分係数と導関数の関係を理解し、方程式に表して活用することができる。 c: 微分法の考え方に興味を持ち、それらを具体的な事象に当てはめて考察に活用しようとする。	① 授業態度 ② 課題提出 ③ 確認テスト ④ 定期考査
		積・商の導関数	○	○	○		
		合成関数と逆関数の微分法	○	○	○		
		いろいろな関数の導関数	○	○	○		
		第n次導関数	○	○	○		
		2変数関数・媒介変数関数	○	○	○		
		接線の方程式	○	○	○		
		平均値の定理	○	○	○		
		関数の値の変化とグラフ	○	○	○		
方程式、不等式への応用	○	○	○				
速度と加速度・近似値	○	○	○				

後期中間	第4章 積分法とその応用	不定積分とその基本性質	○	○	○	a: 積分法の考え方を理解し、それらの関連から適切に公式を用いて、式や値を求めることができる。積分法を用いて面積や体積を求めるなど、物事を数学的に表現・処理することができる。 b: 置換積分法や部分積分法、区分求積法などの定理を理解し、活用することができる。また、微分法と積分法の関係を理解し活用することができる。 c: 積分法の考え方に興味を持ち、それらを具体的な事象に当てはめて考察に活用しようとする。	① 授業態度 ② 課題提出 ③ 確認テスト ④ 定期考査
		置換積分法と部分積分法	○	○	○		
		いろいろな関数の不定積分	○	○	○		
		定積分とその基本性質	○	○	○		
		置換積分法と部分積分法	○	○	○		
		定積分と極限・不等式	○	○	○		
		面積・体積	○	○	○		
速度と道のり・曲線の長さ	○	○	○				
後期末	大学入試問題演習	共通テスト対策 二次試験対策	○	○	○	共通テストの対策及び二次試験の対策に精力的に取り組んでいる。	① 授業態度 ② 課題提出

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	40	25	15
	思考力・判断力・表現力	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
前期末	知識及び技能	40	25	15
	思考力・判断力・表現力	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
後期中間	知識及び技能	40	25	15
	思考力・判断力・表現力	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
後期末	知識及び技能	40	25	15
	思考力・判断力・表現力	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25

令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	数学	学年	3年	教科書	最新 数学C(数研出版)
科目	数学C	クラス	Ⅲコース	副教材	3ROUND 数学C(数研出版) NEW ACTION FRONTIER 数学C
		単位数	2	担当者	五日市純哉

学習目標	① ベクトル、平面上の曲線と複素数平面の基本的問題を解くことができる。 ② 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを世の中の事象に活用し数学的に考察することができる。 ③ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。				
学習方法	① 授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行う。 ② 授業内容についての課題に取り組む。また、週末や長期休業等の課題に取り組む。 ③ 演習問題に取り組む。また、入試過去問題等を用いて受験に向けた対策を行う。				
学習評価	評価の観点 当該科目の評価の趣旨				
	a 知識及び技能	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。			
	b 思考力・判断力・表現力	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることを通して、数学的な思考力・判断力・表現力を身に付けている。			
	c 主体的に学習に取り組む態度	数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。			
定期考査については、上記a,b,cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。					

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1章 ベクトル	ベクトルの基本性質	○	○	○	a: ベクトルの性質について理解し、適切に処理することができる。ベクトルの四則演算を図示することができる。図形の性質をベクトルで表現して扱うことができる。 b: ベクトルの図形的意味を考え、考察することができる。 c: ベクトルの演算や内積の図形的意味に興味を持ち、有用性を考えることができる。	①授業態度 (1)発言 (2)取組状況 (3)評価テスト ②課題提出 (1)提出状況 (2)取組状況 (3)確認テスト ④定期考査
		ベクトルの和、差	○	○	○		
		ベクトルの実数倍	○	○	○		
		ベクトルの成分と演算	○	○	○		
		ベクトルの内積	○	○	○		
	第1節 平面上のベクトル	内積の性質	○	○	○		
		位置ベクトル	○	○	○		
	第2節 ベクトルと平面図形	ベクトルと図形	○	○	○		
		空間の座標	○	○	○		
		空間のベクトル	○	○	○		
ベクトルの成分と演算		○	○	○			
ベクトルの内積		○	○	○			
第3節 空間のベクトル	位置ベクトル	○	○	○			
	空間図形への応用	○	○	○			
	空間ベクトルの成分と演算	○	○	○			
前期末	第2章 複素数平面	複素数平面・和と差	○	○	○	a: 複素数平面の基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、様々な式や値を求めることができる。式の特徴及び複素数平面を的確に捉えて適切に定理・公式を用いて処理したり、推論することができる。 b: 複素数平面における図形の移動などに関連付けて複素数の演算や累乗根などの意味を考察することができる。 c: 式の演算や性質及び複素数平面に関心を持ち、具体的な事象の考察に積極的に活用しようとする。	①授業態度 ②課題提出 ③確認テスト ④定期考査
		複素数の極形式	○	○	○		
		ド・モアブルの定理	○	○	○		
		複素数と平面図形	○	○	○		
後期中間	第3章 式と曲線	放物線・楕円・双曲線	○	○	○	a: 放物線や楕円、双曲線の基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、様々な式や値を求めることができる。式及びグラフの特徴を的確に捉えて適切に定理・公式を用いて処理することができる。 b: 放物線や楕円、双曲線を相互に関連付けて捉え、考察することができる。 c: 式の演算や性質及び2次曲線に関心を持ち、具体的な事象の考察に積極的に活用しようとする。	①授業態度 ②課題提出 ③確認テスト ④定期考査
		2次曲線の平行移動	○	○	○		
		2次曲線と直線	○	○	○		
		曲線の媒介変数表示	○	○	○		
		極座標と極方程式	○	○	○		
		コンピュータと曲線	○	○	○		
後期末	大学入試問題演習	共通テスト対策 二次試験対策	○	○	○	共通テストの対策及び二次試験の対策に精力的に取り組んでいる。	①授業態度 ②課題提出

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	40	25	15
	思考力・判断力・表現力	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
前期末	知識及び技能	40	25	15
	思考力・判断力・表現力	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
後期中間	知識及び技能	40	25	15
	思考力・判断力・表現力	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
後期末	知識及び技能	40	25	15
	思考力・判断力・表現力	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25

令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	数学	学年	3年	教科書	最新 数学Ⅰ、最新 数学A、最新 数学Ⅱ、最新 数学B(数研出版)
科目	応用数学	クラス	Ⅲコース	副教材	数学ⅠA・ⅡBC標準演習PLAN100 2025大学入学共通テスト直前実践問題集 数学ⅠAプレノート Full(数研) 2025大学入学共通テスト直前実践問題集 数学ⅡBCプレノート Full(数研) 2025大学入学共通テスト総合問題集 数学ⅠA(河合出版) 2025大学入学共通テスト総合問題集 数学ⅡBC(河合出版) 等
		単位数	3	担当者	五日市純哉

学習目標	① 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを世の中の事象に活用し数学的に考察することができる。 ② 数学的な見方や考え方のよさを認識し、仲間と協力してよりよく問題を解決することができる。 ③ 大学入試に向けて、既習内容を復習し、センター試験や二次試験などの受験問題に対応できるようになる。	
学習方法	① 授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行う。 ② 授業内容についての課題に取り組む。また、週末や長期休業等の課題に取り組む。 ③ 演習問題に取り組む。また、入試過去問題等の研究を行う。	
学習評価	評価の観点 当該科目の評価の趣旨	
	a 知識及び技能	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
	b 思考力・判断力・表現力	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な思考力・判断力・表現力を身に付けている。
	c 主体的に学習に取り組む態度	数学の論理や体系に関心を持つとともに数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。
定期考査については、上記a,b,cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	数学Ⅰ・A・Ⅱ・B 補充演習 応用演習	各種個別学力試験に対応した問題演習	○	○	○	a: 数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、それを演算に用いたり、解を求めることができる。事象の特徴を捉えて適切に公式を用いることができる。また、数学的に表現・処理したり、推論するなど、よりよく問題を解決することができる。 b: 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることで、式の特徴や関係を考察することができる。 c: 数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づき、具体的な事象の考察に活用しようとする。	①授業態度 ②課題提出 ③確認テスト ④定期考査
前期末	数学Ⅰ・A・Ⅱ・B 補充演習 応用演習	各種個別学力試験に対応した問題演習	○	○	○	a: 数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、それを演算に用いたり、解を求めることができる。事象の特徴を捉えて適切に公式を用いることができる。また、数学的に表現・処理したり、推論するなど、よりよく問題を解決することができる。 b: 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることで、式の特徴や関係を考察することができる。 c: 数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づき、具体的な事象の考察に活用しようとする。	①授業態度 ②課題提出 ③確認テスト ④定期考査
後期中間	数学Ⅰ・A・Ⅱ・B 補充演習 応用演習	各種個別学力試験に対応した問題演習	○	○	○	a: 数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、それを演算に用いたり、解を求めることができる。事象の特徴を捉えて適切に公式を用いることができる。また、数学的に表現・処理したり、推論するなど、よりよく問題を解決することができる。 b: 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることで、式の特徴や関係を考察することができる。 c: 数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づき、具体的な事象の考察に活用しようとする。	①授業態度 ②課題提出 ③確認テスト ④定期考査
後期末	大学入試問題演習	共通テスト対策 二次試験対策	○	○	○	共通テストの対策及び二次試験の対策に精力的に取り組んでいる。	①授業態度 ②課題提出

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	40	25	15
	思考力・判断力・表現力	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
前期末	知識及び技能	40	25	15
	思考力・判断力・表現力	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
後期中間	知識及び技能	40	25	15
	思考力・判断力・表現力	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
後期末	知識及び技能	40	25	15
	思考力・判断力・表現力	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25

令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	理科	学年	3	教科書	化学基礎(数研出版)
科目	化学特講	クラス	Ⅲ・文系	副教材	セミナー化学基礎+化学 チェック&演習 化学基礎
		単位数	2	担当者	佐々木 倫郎

学習目標	○化学基礎で扱った内容を発展させ、物質とその変化を本質的に理解することで、内容の定着を図るとともに、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。
------	---

学習方法	○授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行う。 ○授業内容についての演習問題に取り組む。また、週末や長期休業等の課題に取り組む。 ○実験器機、器具などの基本操作ができる。 ○基礎・基本問題に繰り返し取り組む。
------	---

学習評価	評価の観点	評価の趣旨
	a 知識及び技能	物質の構成や変化に関する概念や法則についての知識を身に付けている。
	b 思考力・判断力・表現力	物質の構成や変化を化学式や法則を用いて表現している。
	c 主体的に学習に取り組む態度	身近な物質や現象に着目し、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
定期考査については、上記 a, b, c の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1編 物質の構成と化学結合 第2編 物質の変化	各種個別学力試験 に対応した問題演習	○	○	○	a 物質の構成や変化に関する概念や法則について理解している。 b 物質の構成や変化を化学式や法則を用いて説明することができる。 c 身のまわりの物質の構成や変化について興味をもつ。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査
			○	○	○	a 物質の構成や変化に関する概念や法則について理解している。 b 物質の構成や変化を化学式や法則を用いて説明することができる。 c 身のまわりの物質の構成や変化について興味をもつ。	
前期末	第1編 物質の構成と化学結合 第2編 物質の変化	各種個別学力試験 に対応した問題演習	○	○	○	a 物質の構成や変化に関する概念や法則について理解している。 b 物質の構成や変化を化学式や法則を用いて説明することができる。 c 身のまわりの物質の構成や変化について興味をもつ。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査
			○	○	○	a 物質の構成や変化に関する概念や法則について理解している。 b 物質の構成や変化を化学式や法則を用いて説明することができる。 c 身のまわりの物質の構成や変化について興味をもつ。	

後期中間	第1編 物質の構成と化学結合 第2編 物質の変化	各種個別学力試験 に対応した問題演習	○	○	○	a 物質の構成や変化に関する概念や法則について理解している。 b 物質の構成や変化を化学式や法則を用いて説明することができる。 c 身のまわりの物質の構成や変化について興味をもつ。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査
			○	○	○	a 物質の構成や変化に関する概念や法則について理解している。 b 物質の構成や変化を化学式や法則を用いて説明することができる。 c 身のまわりの物質の構成や変化について興味をもつ。	
後期末	共通テスト対策	問題演習	○	○	○	a 物質の構成や変化に関する概念や法則について理解している。 b 物質の構成や変化を化学式や法則を用いて説明することができる。 c 身のまわりの物質の構成や変化について興味をもつ。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	理科	学年	3	教科書	生物基礎(数研出版)
科目	生物特講	クラス	Ⅲ・文系	副教材	リードα 生物基礎+生物(数研出版) チェック&演習 生物基礎(数研出版)
		単位数	2	担当者	佐々木 倫郎

学習目標	○生物基礎で扱った内容を発展させ、生物や生命現象を本質的に理解することで、内容の定着を図るとともに、生物や生命現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。
------	---

学習方法	○授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行う。 ○授業内容についての演習問題に取り組む。また、週末や長期休業等の課題に取り組む。 ○実験器機、器具などの基本操作ができる。 ○基礎・基本問題に繰り返し取り組む。
------	---

学習評価	評価の観点	評価の趣旨
	a 知識及び技能	生物や生命現象に関する概念や法則についての知識を身に付けている。
	b 思考力・判断力・表現力	生物や生命現象を科学的にとらえて表現している。
	c 主体的に学習に取り組む態度	身のまわりの生物や生命現象に着目し、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
定期考査については、上記 a, b, c の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1編 生物の特徴	各種個別学力試験 に対応した問題演習	○	○	○	a 生物や生命現象に関する概念や法則について理解している。 b 生物や生命現象を科学的にとらえて説明することができる。 c 身のまわりの生物や生命現象に興味をもつ。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査
	第2編 ヒトの体内環境の維持						
第3編 生物の多様性と生態系							
前期末	第1編 生物の特徴	各種個別学力試験 に対応した問題演習	○	○	○	a 生物や生命現象に関する概念や法則について理解している。 b 生物や生命現象を科学的にとらえて説明することができる。 c 身のまわりの生物や生命現象に興味をもつ。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査
	第2編 ヒトの体内環境の維持						
第3編 生物の多様性と生態系							

後期中間	第1編 生物の特徴	各種個別学力試験 に対応した問題演習	○	○	○	a 生物や生命現象に関する概念や法則について理解している。 b 生物や生命現象を科学的にとらえて説明することができる。 c 身のまわりの生物や生命現象に興味をもつ。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査
	第2編 ヒトの体内環境の維持						
第3編 生物の多様性と生態系							
後期末	共通テスト対策	問題演習	○	○	○	a 物質の構成や変化に関する概念や法則について理解している。 b 物質の構成や変化を化学式や法則を用いて説明することができる。 c 身のまわりの物質の構成や変化について興味をもつ。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	理科	学年	3	教科書	化学(数研出版)
科目	化学	クラス	Ⅲ・理系	副教材	セミナー化学基礎+化学 チェック&演習 化学
		単位数	5	担当者	堤 友理江

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ○化学的な事象・現象に興味・関心を持ち、探求心を高める。 ○基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 ○目的意識を持って実験・観察などを行い、探求する能力と態度を身につける。 ○化学基礎の学習を発展させ、科学的な自然観の育成をはかる。 	
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行う。 ○授業内容についての演習問題に取り組む。また、週末や長期休業等の課題に取り組む。 ○実験器機、器具などの基本操作ができる。 ○基礎・基本問題に繰り返し取り組む。 	
学習評価	評価の観点	評価の趣旨
	a 知識及び技能	自然の事象・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
	b 思考力・判断力・表現力	自然の事象・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
	c 主体的に学習に取り組む態度	自然の事象・現象に関心や探求心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするともに、科学的態度を身に付けている。
定期考査については、上記 a, b, c の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1編 物質の状態	固体の構造 物質の状態変化 溶液	○	○	○	a 物質の状態とその変化、溶液と平衡について理解している。 b 物質の状態とその変化、溶液と平衡における規則性や関係性を見いだして説明することができる。 c 日常生活の中の物質の状態について興味をもつ。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査

後期中間	第4編 有機化合物	脂肪族炭化水素 芳香族化合物	○	○	○	a 有機化合物の性質について理解しているか。 b 有機化合物における規則性や関係性を見いだして説明することができるか。 c 日常生活の中の有機化合物について興味・関心を持っているか。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査
	第5編 高分子化合物	天然高分子化合物 合成高分子化合物					
後期末	共通テスト対策	問題演習					

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和5年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	理科	学年	3学年	教科書	物理(数研出版)
科目	物理	クラス	Ⅲ・理系	副教材	リードα物理・物理基礎 チェック&演習 物理
		単位数	3	担当者	佐々木 倫郎

学習目標	物理の授業を通して次のことができるようにする。				
	○物理的な事象・現象に興味・関心を持ち、探求心を高める。 ○基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 ○目的意識を持って実験・観察などを行い、探求する能力と態度を身につける。 ○物理基礎の学習を発展させ、科学的な自然観の育成をはかる。				
学習方法	○授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行う。 ○ノートを作成し、授業内容についての課題や演習問題に取り組む。 ○実験、観察器機、器具などの基本操作を学ぶ。 ○基礎・基本問題に繰り返し取り組む。				
	当該科目の評価の趣旨				
学習評価	評価の観点				
	a 知識及び技能	自然の事象・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。			
	b 思考力・判断力・表現力	自然の事象・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。			
	c 主体的に学習に取り組む態度	自然の事象・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。			
定期考査については、上記a,b,c,dの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。					

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1編 力と運動	平面内の運動	○	○	○	a: 速度・加速度、落体の運動について理解している。 b: 速度・加速度、落体の運動について思考・判断・表現できる。 c: 速度・加速度、落体の運動について関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取組み ③課題への取組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査
		剛体	○	○	○	a: 剛体にはたらく力のつり合い、重心について理解している。 b: 剛体にはたらく力のつり合い、重心について思考・判断・表現できる。 c: 剛体にはたらく力のつり合い、重心について関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	
		運動量保存の法則	○	○	○	a: 力積と運動量保存則、反発係数について理解している。 b: 力積と運動量保存則、反発係数について思考・判断・表現できる。 c: 力積と運動量保存則、反発係数について関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	
		円運動と万有引力	○	○	○	a: 等速円運動・慣性力・単振動・万有引力について理解している。 b: 等速円運動・慣性力・単振動・万有引力について思考・判断・表現できる。 c: 等速円運動・慣性力・単振動・万有引力について関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	
前期末	第2編 熱と気体	気体のエネルギーと状態変化	○	○	○	a: 気体分子の運動、気体の状態変化について理解している。 b: 気体分子の運動、気体の状態変化について思考・判断・表現できる。 c: 気体分子の運動、気体の状態変化について関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取組み ③課題への取組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査
		第3編 波	波の伝わり方	○	○	○	
	音の伝わり方		○	○	○	a: 音の伝わり方、ドップラー効果について理解している。 b: 音の伝わり方、ドップラー効果について思考・判断・表現できる。 c: 音の伝わり方、ドップラー効果について関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	
	第4編 電気と磁気	光	○	○	○	a: 光の伝わり方、回折・干渉について理解している。 b: 光の伝わり方、回折・干渉について思考・判断・表現できる。 c: 光の伝わり方、回折・干渉について関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	
後期中間	第4編 電気と磁気	電流	○	○	○	a: オームの法則と直流回路について理解している。 b: オームの法則と直流回路について思考・判断・表現できる。 c: オームの法則と直流回路について関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取組み ③課題への取組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査
		電流と磁場	○	○	○	a: 磁場と電流が磁場から受ける力について理解している。 b: 磁場と電流が磁場から受ける力について思考・判断・表現できる。 c: 磁場と電流が磁場から受ける力について関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	
		電磁誘導と電磁波	○	○	○	a: 電磁誘導と交流、電磁波について理解している。 b: 電磁誘導と交流、電磁波について思考・判断・表現できる。 c: 電磁誘導と交流、電磁波について関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	
	第5編 原子	電子と光	○	○	○	a: 電子と光の粒子性について理解している。 b: 電子と光の粒子性について思考・判断・表現できる。 c: 光電子と光の粒子性について関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	
後期末	第5編 原子	原質と原子核	○	○	○	a: 原子構造と放射線について理解している。 b: 原子構造と放射線について思考・判断・表現できる。 c: 原子構造と放射線について関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取組み ③課題への取組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト
	入試に向けた問題演習	共通テスト対策 二次試験対策	○	○	○	共通テストの対策及び二次試験の対策に精力的に取り組んでいる。	

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	理科	学年	3	教科書	生物(数研出版)
科目	生物	クラス	Ⅲ・理系	副教材	生物図録(数研出版) リードα生物基礎・生物(数研出版) チェック&演習生物(数研出版)
		単位数	4	担当者	堤 友理江

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ○生物基礎で概要を学習したことをもとに、その詳細なしくみを理解できる。 ○グループ学習を通し、自ら調べるとともに他と協力しながら学習内容を深めることができる。 ○実験・観察により探求の過程を身につけることができる。 ○大学入試に対応する学力を習得できる。 	
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行う。 ○長期休業等でレポートを提出し、時事に関心を寄せるとともに、問題解決能力を養う。 ○課題ノートや授業ノート、レポートの作成に工夫を加え、学習内容を整理する。 ○実験・観察の目的に沿った手法を他と協議しながら実施する。 ○模試問題、大学入試過去問に取り組む。 	
学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨
	a 知識及び技能	生物や生命現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につけている。自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養が身につけている。
	b 思考力・判断力・表現力	生物や生命現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえられる。生命現象について探求する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に全体を総合的にとらえられる。
	c 主体的に学習に取り組む態度	生物や生命現象を通して自然に対する探求心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探求する能力と態度を身につけている。
定期考査については、上記a,b,cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1章 生物の進化	1生命の起源と生物の進化 2遺伝子の変化と多様性 3遺伝子の組み合わせの変化 4進化のしくみ 5生物の系統と進化 6人類の系統と進化	○	○	○	a.生命の誕生から今までに起こった生命現象について理解しているか。 b.生命の誕生からまでの生物界の変遷を説明できるか。 c.さまざまな生物や生命現象に対して興味・関心を持っているか。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査
	第2章 細胞と分子	1生体物質と細胞 2タンパク質の構造と性質 3化学反応にかかわるタンパク質 4膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質	○	○	○	a細胞ではたらく重要なタンパク質の特徴とはたらきを理解しているか。 bタンパク質の特異性と生体における重要な機能について説明できるか。 cさまざまな生物や生命現象に対して興味・関心を持っているか。	
前期末	第3章 代謝	1代謝とエネルギー 2呼吸と発酵 3光合成	○	○	○	a呼吸でATPが産生されるしくみ、光合成で二酸化炭素から有機物が合成されるしくみを理解しているか。 b呼吸や光合成のメカニズムについて説明できるか。 cさまざまな生物や生命現象に対して興味・関心を持っているか。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査
	第4章 遺伝情報の発現と発生	1DNAの構造と複製 2遺伝情報の発現 3遺伝子の発現調節 4発生と遺伝子発現 5遺伝子を扱う技術	○	○	○	a遺伝子の発現とその調節のしくみについて理解しているか。 bウニやカエルの発生過程、三胚葉から分化する器官を説明できるか。 cさまざまな生物や生命現象に対して興味・関心を持っているか。	
後期中間	第5章 動物の反応と行動	1刺激の需要 2ニューロンとその興奮 3情報の統合 4刺激への反応 5動物の行動	○	○	○	a解剖実験を正確に行い、眼球内の構造を確認できるか。また、ニューロンの構造、興奮と伝導のしくみを神経伝達物質のはたらきについて正確に理解しているか。 b動物の生得的行動と学習による行動を、そのしくみとともに具体的な行動の例として説明できるか。 cさまざまな生物や生命現象に対して興味・関心を持っているか。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査
	第6章 植物の環境応答	1植物の生活と植物ホルモン 2発芽の調節 3成長の調節 4器官の分化と花芽形成の調節 5環境変化に対する応答 6配偶子形成と受精	○	○	○	a植物ホルモンの性質とはたらきを理解しているか。 b植物の一生における環境応答をホルモンの知識を利用して説明できるか。 cさまざまな生物や生命現象に対して興味・関心を持っているか。	
後期末	第7章 生物群集と生態系	1個体群の構造と性質 2個体群内の個体間の関係 3異なる種の個体群間の関係 4生態系の物質生産と物質循環 5生態系と人間生活	○	○	○	a生物群集における生物の役割と生物多様性の重要性を理解しているか。 b生態系における生物同士の関係における特徴的な性質について説明できるか。 cさまざまな生物や生命現象に対して興味・関心を持っているか。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査
	共通テスト対策	問題演習					

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	保健体育	学年	3	教科書	現代高等保健体育(大修館)
科目	体育	クラス	Ⅲコース	副教材	Active Sports 2022 総合版
		単位数	2	担当者	照井 貴子 / 田村 憲介

学習目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育み、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を深め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育むことができる。	
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の合理的、計画的な実践を通して、知識、技能を高める。 ・ペアやチームでの活動を通して、仲間と協力したり交流したりする。 ・教科書や副教材などから、競技のルールや健康、安全面についての理解を深める。 	
学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨
	a 知識及び技能	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項及び生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための理論について理解している。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
	b 思考力・判断力・表現力	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫している。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断し、それらを表している。
c 主体的に学習に取り組む態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとする。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	A 体づくり運動	体ほぐしの運動 体力を高める運動 集団行動	○	○	○	a: 心と体は互いに影響し変化することを気づくことができている。 b: 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫している。 c: 体づくり運動、集団行動に主体的に取り組んでいる。	観察 記録、学習カード
	E 球技 ア: ゴール型 イ: ネット型	バスケットボール	○	○	○	a: ゴール前への侵入などから攻防を展開するための安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きができる。 b: これまでの学習を踏まえて、チームが目指す目標に応じたチームや自己の課題を設定している。 c: 球技の学習に主体的に取り組もうとしている。合意形成に貢献しようとしている。	観察 スキルテスト 学習カード
		バレーボール	○	○	○	a: 仲間と運動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができる。 b: グループや自己の課題を解決するために練習計画を立てられる。 c: 仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。	
	C 陸上競技 ア: 競走 イ: 跳躍	短距離走 走り幅跳び	○	○	○	a: 各種目特有の技能を高めることができる。 b: 課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の課題を見直している。 c: 役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとしている。	観察 スキルテスト 学習カード、テスト
H 体育理論 (3)豊かなスポーツライフの設計の仕方	1. 生涯スポーツの良方・考え方 2. ライフスタイルに応じたスポーツ	○	○	○	a: 学習に主体的に取り組もうとしている。 b: 比較したり、分類したり、分析したり、まとめたりするなどして、判断し、説明している。 c: 学習の内容について、理解したことを言ったり書き出ししたりしている。	観察 筆記テスト	
前期末	G ダンス ウ: 現代的なリズムのダンス	グループ学習 発表会	○	○	○	a: 全身で自由に踊ったり、変化とまとまりを付けて仲間と対応したりして踊るための動きができる。 b: これまでの学習を踏まえて、目標に応じたグループや自己の課題を設定している。 c: 互いに共感して高め合おうとしている。合意形成に貢献しようとしている。	観察 学習カード 発表会
後期中間	E 球技 ア: ゴール型 ウ: ベース型	サッカー	○	○	○	a: 仲間と運動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができる。 b: グループや自己の課題を解決するために練習計画を立てられる。 c: 仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。	観察 スキルテスト 学習カード
		ソフトボール	○	○	○	a: 仲間と運動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができる。 b: グループや自己の課題を解決するために練習計画を立てられる。 c: 仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。	
後期末	H 体育理論 (3)豊かなスポーツライフの設計の仕方	3. 日本のスポーツ振興 4. 筆記テスト	○	○	○	a: 学習に主体的に取り組もうとしている。 b: 比較したり、分類したり、分析したり、まとめたりするなどして、判断し、説明している。 c: 学習の内容について、理解したことを言ったり書き出ししたりしている。	観察 筆記テスト
		E 球技 ネット型	バドミントン 卓球	○	○	○	
後期末	H 体育理論 (3)豊かなスポーツライフの設計の仕方	5. スポーツと環境 6. 筆記テスト	○	○	○	a: 学習に主体的に取り組もうとしている。 b: 比較したり、分類したり、分析したり、まとめたりするなどして、判断し、説明している。 c: 学習の内容について、理解したことを言ったり書き出ししたりしている。	観察 筆記テスト

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考查	考查以外
前期中間	知識及び技能	30	0	30
	思考力・判断力・表現力	40	0	40
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	30	0	30
	思考力・判断力・表現力	40	0	40
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	30	0	30
	思考力・判断力・表現力	40	0	40
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	30	0	30
	思考力・判断力・表現力	40	0	40
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和6年度 年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	外国語	学年	3	教科書	Power On English Communication III
科目	コミュニケーション英語 III	クラス	IIIコース	副教材	教科書準拠ワークブック、システム英単語
		単位数	4	担当者	小竹 光

学習目標	コミュニケーション英語IIIの授業を通して次のことができるようにする。 ①比較的社会性のある事柄などについて、必要な情報を理解し、状況を判断できる。共通テストを意識した読みをすることができる。 ②初見の論理的英文・物語・エッセイなどの英文の概要や要点を理解し必要な情報を得ることができる。 ③日常生活での出来事や話題について、相手に説明したり、自分の意見や感想を述べることができる。10分間に100語以上記述できるようにしたい。 ④相手やグループで話し合い、相手を尊重したディスカッションや簡易ディベートをすることができる。				
学習方法	①最終的なゴールを示した授業を展開する。 ②基本的に予習は不要。①のゴールに対して必要な知識・技能・理解・表現力などを組合せながら授業をすすめる。 ③初見の英文を積極的に読み、概要をつかむためのスキミング・スキニングの要素を取り入れた読解を行う。 ④以上のことを身に付けるために基本例文の練習・ペアワーク・発表などを積極的に行う。 ⑤習ったことを定着させるために音読や英作文、ワークブック等を用いて復習を行う。				
学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨			
	a 知識及び技能	外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。			
	b 思考力・判断力・表現力	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを的確に伝えている。			
	c 主体的に学習に取り組む態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。 定期考査については、上記a,b,cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。			

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	Lesson1 Library of the Future	音読 定着→演習 自己表現	○	○	○	a: 分詞構文、関係副詞whereを用い、情報や考えを伝えることができる。 b: 最近の図書館の実情について読み、情報や自分の考えを表現できる。 c: 最近の図書館の実情について、情報や意図を把握しようとしている。	音読・ペアワーク 小テスト 英作文
	Lesson2 History Maker Otani Shohei	音読 定着→演習 自己表現	○	○	○	a: 現在完了進行形、be to不定詞を用い、情報や考えを伝えることができる。 b: 大谷選手についての英文を読み、情報や考えを表現できる。 c: 大谷選手について、情報や意図を把握しようとしている。	音読・ペアワーク 小テスト 英作文
	Lesson3 Zoo Dentists: How They Work for Zoo Animals	音読 定着→演習 自己表現	○	○	○	a: 比較、使役の表現を用い、情報や考えを伝えることができる。 b: 動物の治療について読み、情報や自分の考えを表現できる。 c: 動物の治療について、情報や意図を把握しようとしている。	音読・ペアワーク 小テスト 英作文
前期末	Lesson4 Nature Photographer in Alaska	音読 定着→演習 自己表現	○	○	○	a: 関係代名詞のwhat、非制限用法を用い、情報や考えを伝えることができる。 b: 松本紀生さんのメッセージを読み、情報や考えを表現できる。 c: 松本紀生さんのメッセージについて、情報や意図を把握しようとしている。	音読・ペアワーク 小テスト 英作文
	Lesson5 A Science Award That Makes You Laugh, and Then Think	音読 定着→演習 自己表現	○	○	○	a: 過去完了進行形、受け身を用い、情報や考えを伝えることができる。 b: イグ・ノーベル賞の研究に関する英文を読み、情報や考えを表現できる。 c: イグ・ノーベル賞の研究に関する記事について、情報や意図を把握しようとしている。	音読・ペアワーク 小テスト 英作文
	Lesson6 Where Does Halloween Come from?	音読 定着→演習 自己表現	○	○	○	a: 追加のディスコースマーカーを用い、情報や考えを伝えることができる。 b: ハロウィーンの期限や歴史について読み、情報や考えを表現できる。 c: ハロウィーンの期限や歴史について、情報や意図を把握しようとしている。	音読・ペアワーク 小テスト 宿題

後期中間	Lesson7 Will 3D Printing Technology Change the World?	音読 定着→演習 自己表現	○	○	○	a: 事実の文、意見の文を学び、情報や考えを伝えることができる。 b: 3Dプリンターに関する英文を読み、情報や考えを表現できる。 c: 3Dプリンターに関する英文を読み、情報や意図を把握しようとしている。	音読・ペアワーク 小テスト 英作文
	Lesson8 A Conductor of the Underground Railroad	音読 定着→演習 自己表現	○	○	○	a: 時間順序のディスコースマーカーを用い、情報や考えを伝えることができる。 b: 地下鉄道に関する英文を読み、情報や考えを伝えることができる。 c: 地下鉄道の記事について、情報や意図を把握しようとしている。	音読・ペアワーク 小テスト 英作文
	Lesson9 English, Always Growing	音読 定着→演習 自己表現	○	○	○	a: 列挙のディスコースマーカーを用い、情報や考えを伝えることができる。 b: 英語の歴史や語形成に関する英文を読み、情報や考えを伝えることができる。 c: 英語の歴史や語形成に関する記事について、情報や意図を把握しようとしている。	音読・ペアワーク 小テスト 英作文
	Lesson10 Understanding the Culture of Dogs	音読 定着→演習 自己表現	○	○	○	a: 追加のディスコースマーカーを用い、情報や考えを伝えることができる。 b: 犬の習性とその文化について、情報や考えを伝えることができる。 c: 犬の習性とその文化について、情報や意図を把握しようとしている。	音読・ペアワーク 小テスト 英作文
後期末	大学入試問題演習	大学入学 共通テスト対策 二次試験対策	○	○	○	共通テストの対策及び二次試験の対策に精力的に取り組んでいる。	音読・ペアワーク 小テスト 英作文 宿題

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	20	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	15	15
前期末	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	20	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	15	15
後期中間	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	20	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	15	15
後期末	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	20	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	15	15

令和6年度 年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	外国語	学年	3	教科書	EARTHRISE English Logic and Expression III
科目	論理表現Ⅲ	クラス	Ⅲコース	副教材	教科書準拠ワークブック
		単位数	2	担当者	小竹 光

学習目標	何よりも、自らの思いを適切に表現するために英語を学び、使っていくことを意識して学習します。 初見の論理的英文・物語・エッセイなどの英文の概要や要点を理解し必要な情報を得ることができる。 日常生活での出来事や話題について、相手に説明したり、自分の意見や感想を述べることができる。 授業で習ったことや日常生活の身近な話題などについて、まとまりのある文章を書くことができる。 ディベートの基本を知り、運用することで主体的・対話的で深い学びができるようにする。
学習方法	適切な早さや発音、イントネーションで英文を音読できるように練習する。 学習した表現を活用して、自分の意見が言えるように練習する。 学習した表現を理解して書けるように練習する。 ペアやグループで英語を用いることでメンタルバリアを低くし、更に積極的に英語を表現する方法を築き上げていく。
学習評価	評価の観点
	a コミュニケーションへの関心・意欲・態度
	b 外国語表現の能力
	c 言語や文化についての知識・理解
定期考査については、上記a,b,cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。	

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	Lesson1 Coming to Japan	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○	○	○	a: 日本の観光地や交通手段について伝えることができる。 b: 訪日外国人が増える事のメリット、デメリットを話すことができる。 c: 日本のおすすめ観光地についてまとまった文を書くことができる。	音読 ペアワーク 英作文
	Lesson2 Online shopping	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○	○	○	a: オンラインショッピングでの問題について伝えることができる。 b: オンラインショッピングの危険性について話すことができる。 c: オンラインショッピングでの問題の解決法について書くことができる。	音読 ペアワーク 英作文
	Lesson3 Preparing to study abroad	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○	○	○	a: 留学することで得られるメリット、デメリットについて伝えることができる。 b: 留学することで得られるメリット、デメリットについて話すことができる。 c: 留学することの意義についてまとまった文を書くことができる。	音読 ペアワーク 英作文
	Lesson4 24-hour stores	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○	○	○	a: 24時間営業のメリット、デメリットについて伝えることができる。 b: 24時間営業のメリット、デメリットについて話すことができる。 c: 24時間営業の問題についてまとまった文を書くことができる。	音読 ペアワーク 英作文
前期末	Lesson5 Smart agriculture	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○	○	○	a: スマート農業のメリット、デメリットについて伝えることができる。 b: スマート農業のメリット、デメリットについて話すことができる。 c: スマート農業の将来についてまとまった文を書くことができる。	音読 ペアワーク 英作文
	Lesson6 Anime, the household robot	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○	○	○	a: 家庭用ロボットを普及させるアイデアを伝えることができる。 b: 家庭用ロボットを普及させるアイデアについて話すことができる。 c: 家庭用ロボットに求める機能についてまとまった文を書くことができる。	音読 ペアワーク 英作文
	Lesson7 Recipes	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○	○	○	a: 郷土料理を広めるためのアイデアを伝えることができる。 b: 郷土料理を広めるためのアイデアを話すことができる。 c: 郷土料理の魅力や歴史等についてまとまった文を書くことができる。	音読 ペアワーク 英作文
	Lesson8 Ahelping hand	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○	○	○	a: 障害者等へのボランティア経験について伝えることができる。 b: 障害者等へのボランティア経験について話すことができる。 c: 障害者等を支えるために、どのような手助けができるか具体的に書くことができる。	音読 ペアワーク 英作文
後期中間	Lesson9 International Science Fair	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○	○	○	a: 国際科学フェアに参加することの魅力について伝えることができる。 b: 国際科学フェアに参加することの魅力について話すことができる。 c: 国際科学フェアの応募フォームをまとまった英語で書くことができる。	音読 ペアワーク 英作文
	Lesson10 Future career plans	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○	○	○	a: 何歳までに将来の仕事を考えるべきか伝えることができる。 b: インターンシップで挑戦したい職業について話すことができる。 c: インターンシップで挑戦したい職業についてまとまった文を書くことができる。	音読 ペアワーク 英作文
	Lesson11 Media reliability	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○	○	○	a: どの情報源が最良であるか伝えることができる。 b: 信頼できる情報源について様々な媒体を紹介することができる。 c: 様々な媒体からの情報の信頼性について、まとまった文を書くことができる。	音読 ペアワーク 英作文
	Lesson12 Garbage problems	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○	○	○	a: ゴミ問題とその解決法について伝えることができる。 b: ゴミ問題への様々な解決法について提案することができる。 c: 表やグラフを用い、ゴミ問題についてまとまった文を書くことができる。	音読 ペアワーク 英作文
後期末	大学入試問題演習	大学入学 共通テスト対策 二次試験対策	○	○	○	共通テストの対策及び二次試験の対策に精力的に取り組んでいる。	音読 ペアワーク 英作文

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30